

報道関係者各位

株式会社コンピュータ・ニュース社

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-18-14本郷ダイヤビル6F

TEL 03-4236-5217 (直通) FAX 03-3818-3006

本件に関するお問い合わせは下記をお願いします。

BCN総研 北村 憲正

<http://www.computernews.com/marketview>

液晶ディスプレイ大躍進 販売構成比率でCRTに0.5ポイント差に迫る

BCN総研は、東名阪のパソコン大手販売会社13社（エイデン、大塚商会＝ランド、グッドウィル、コンプ100満ボルト、コンプマート、CSKエレクトロニクス＝T・ZONE、上新電機、スタンバイ、ソフマップ、九十九電機、ビックピーカン、ニノミヤ、ワンダーコーポレーション＝50音順）562店舗（2001年4月1日現在）の日次販売データをデイリーで収集し配信するBCNランキングを公表しています。このデータをもとに、PCリテール市場の動向を分析したニュース配信を行っています（毎月より、第2、第4金曜日の発行となります）。

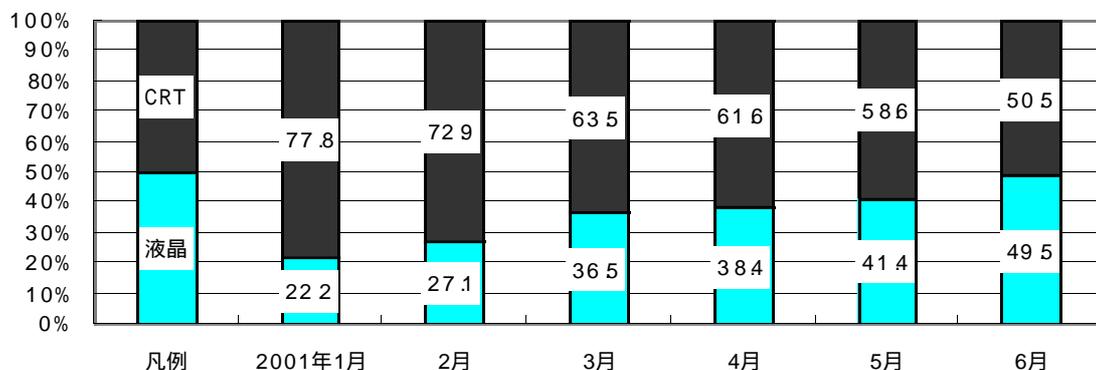
株式会社コンピュータ・ニュース社（本社：東京都文京区、代表取締役社長 奥田喜久男）の市場調査部門であるBCN総研は、液晶ディスプレイの販売台数が急速に伸び、6月の販売構成比率（台数ベース）ではCRTに迫る49.5%に達したことを発表した。夏季商戦に入り液晶の勢いはますます加速しており、7月にはCRTを上回るものと見込まれる。

（BCN総研＝北村 憲正）

2001年に入ってから液晶の販売台数が伸び続けている。ディスプレイにおける液晶の販売構成比率は、1月の22.2%から6月には49.5%と倍増した（図1）。液晶が伸びている最大の要因は、販売価格が急速に低下していることが挙げられる。6月の液晶の平均販売単価は、1月から約2万円下がって7万4,637円となっている。一方、CRTは3万3,000円前後で横ばいを続けており、液晶とCRTの価格差は月ごとに縮小している。この結果、6月には約3万4,000円にまで差が縮まった（図2）。液晶の主流サイズである15インチモデルでは、6万円を下回る製品が増えており、値ごろ感の高まりが液晶の需要を喚起している。

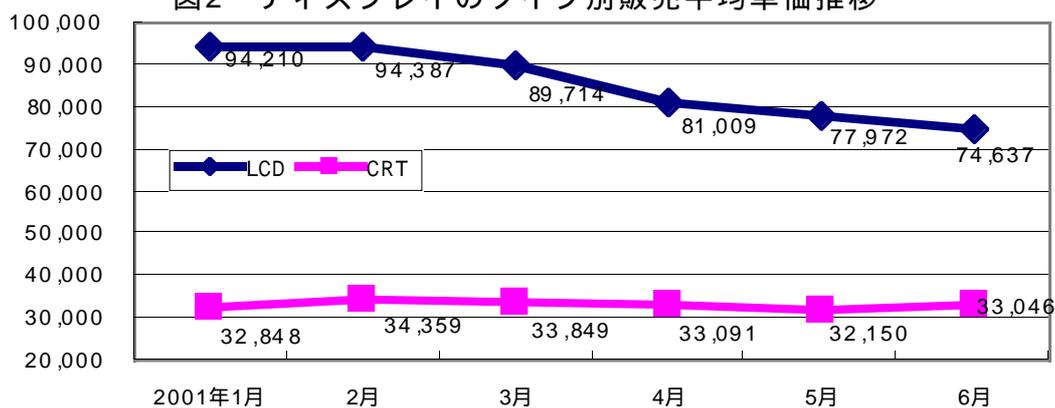
液晶の勢いは、夏季商戦に入りますます加速してきた。6月の週次データをみると、6月第3週（18～24日）に52.2%を占め、販売台数でCRTを追い越した。7月第1週（2～8日）には54.9%を占めており、液晶の販売構成比率は週を追うごとに拡大している。このままの調子で、7月の販売構成比率は液晶がCRTを上回る可能性が高い。

図1 ディスプレイの販売構成比率推移



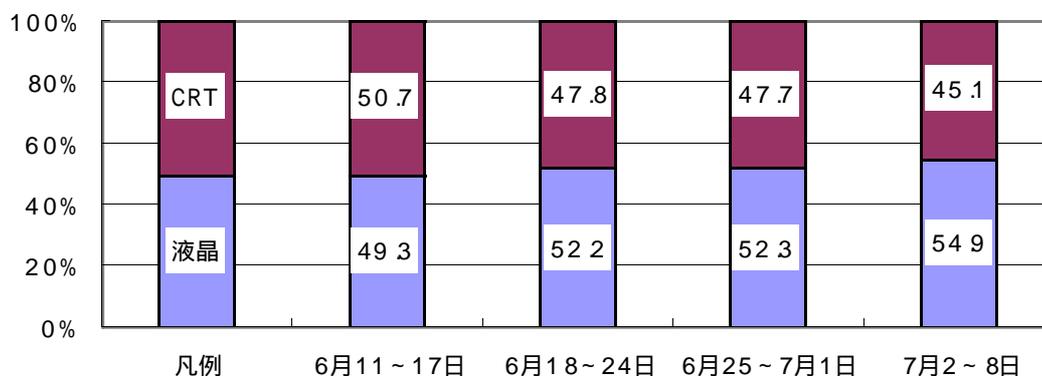
BCNランキング

図2 ディスプレイのタイプ別販売平均単価推移



BCNランキング

図3 ディスプレイの販売構成比率推移 (週次)



BCNランキング

* 本リリースについて、今後メールでの配信をご希望の方がいらっしゃれば、対応させていただきます。北村までご連絡下さい (kitamura@bcn.co.jp)。